

# 第 3 次 枚方市食育推進計画 最終評価報告書（素案）



令和 5 年 6 月  
枚方市

# 目次

<a href="#">第1章 第3次枚方市食育推進計画の概要</a> .....	1
<a href="#">1. 基本理念</a> .....	1
<a href="#">2. 推進する施策</a> .....	2
<a href="#">3. 計画の期間</a> .....	2
<a href="#">4. 中間評価の概要</a> .....	3
<a href="#">第2章 最終評価について</a> .....	6
<a href="#">1. 最終評価の概要</a> .....	6
<a href="#">2. 各指標に関する評価一覧（最終評価）</a> .....	8
<a href="#">3. 指標ごとの達成状況</a> .....	10
<a href="#">第3章 最終評価からみえてきた課題と今後の取組の方向性</a> .....	32
<a href="#">1. 計画期間における社会環境の動向</a> .....	32
<a href="#">2. 本計画の総合評価</a> .....	34
<a href="#">3. 今後の取組の方向性</a> .....	39

# 第1章 第3次枚方市食育推進計画の概要

本市では、市民一人ひとりの食生活における食育の推進は、個人や家庭の担う役割が大きいと考え、一人ひとりが「食」に対する正しい知識と「食」を選択する判断力を身につけ、主体的に食育を推進し、生涯にわたって健全な食生活が実践されることを目指し、各ライフステージの特徴や課題に応じた食育を推進してきました。

また、計画の推進にあたっては、基本理念のもと3つの基本目標と基本目標を達成するための4つの基本方針を設定し、様々な団体が相互に連携し、ネットワークを強化しながら協働で取り組みを進めました。

## 1. 基本理念

子どもから高齢者まで、一人ひとりが「食」に関する正しい知識と「食」を選択する判断力を身につけ、生涯にわたり健康寿命の延伸につながる健全な食生活を実践するとともに、家庭・保育所（園）・幼稚園・認定こども園・学校・地域・生産者等が相互に連携し、ネットワークを築きながら市民活動としての食育の推進に取り組みます。

### 基本目標

- 1：子どもから高齢者まで生涯を通じた食育の推進
- 2：市民の健全な食生活を実践する力を育む
- 3：家庭・保育所（園）・幼稚園・認定こども園・学校・地域・生産者等の相互連携による食育の推進

### 基本方針

- 1. 若い世代を中心とした食育の推進
- 2. 健康寿命の延伸につながる食育の推進
- 3. ネットワークによる食育推進と食文化の継承
- 4. 地産地消の促進と環境に配慮した食育の推進

## 2. 推進する施策

---

基本目標達成するために、本計画では現状と課題を踏まえ、4つの基本方針ごとに施策を定め食育推進に取り組んでいます。

基本方針	施策
1. 若い世代を中心とした食育の推進	(1) 妊産婦や乳幼児への食育推進
	(2) 保育所(園)・幼稚園・認定こども園・学校における食育推進
2. 健康寿命の延伸につながる食育の推進	(1) 生活習慣病予防のための食育推進
	(2) 高齢者の低栄養予防のための食育推進
	(3) 歯と口腔の健康づくりの推進
	(4) 食の自立支援と食生活改善の促進
	(5) 食の安全・安心の確保に向けた食育推進
	(6) 衛生管理・生産者への研修会の開催等の促進
3. ネットワークによる食育推進と食文化の継承	(1) ネットワークをいかした食育推進
	(2) 多様な暮らしに対応した豊かな食体験につながる食育推進
	(3) 地域における食育の環境づくり
	(4) 食文化に関する啓発や情報発信の強化
4. 地産地消の促進と環境に配慮した食育の推進	(1) 地産地消の促進
	(2) 農を身近に感じる食育推進
	(3) 環境に配慮した食育推進

## 3. 計画の期間

---

本計画の実施期間は、平成30年度(2018年度)から令和5年度(2023年度)までの6年間としました。

## 4. 中間評価の概要

令和2年1月頃からの新型コロナウイルス感染症拡大により、飲食を伴う食育活動や多くの人が集まる講座、イベント、農業体験等が中止となり、様々な食育活動に影響が出ている状況でしたが、本計画策定時より推進してきた食育活動の進捗状況を確認するため、令和2年度に中間評価を実施しました。

また、中間評価の基礎資料となるアンケートの設問には、新しい生活様式下での食に関する意識の変化や、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う食生活の変化についての設問を追加し、今後の食育推進の参考としました。

### (1) 中間評価における目標達成度の概要

判定・目標達成度		説明	項目数
A	目標達成	目標値に達していたもの	2 (9.5%)
B	目標は達成していないが改善傾向	策定時よりは数値が改善しているが、目標値には達していないもの	5 (23.8%)
C	変化なし及び悪化	策定時と比較し、数値に変化がないもの及び、悪化したもの	14 (66.7%)
合計（判定できたもの）			21

## (2) 中間評価時の指標ごとの目標達成状況

指標	
包括指標	①食育に関心のある人の増加
	②食育活動を実践している人の増加
基本方針1 若い世代を中心とした食育の推進	③-1欠食のある幼児の減少
	③-2朝食を欠食している小中学生・高校生の減少
	③-3朝食を欠食している大学生・専門学校生の減少
	④1日のうちに2食以上主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている若い世代の増加(20歳代・30歳代)
	⑤調理・菜園活動など、体験型食育活動を行っている保育所(園)・幼稚園・認定こども園の増加
	⑥保護者に対して食育の取り組みを行っている保育所(園)・幼稚園・認定こども園の増加
	⑦小学校給食の米飯率の向上
基本方針2 健康寿命の延伸につながる食育の推進	⑧1日のうちに2食以上主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加(生活習慣病予防)
	⑨生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する市民の割合
	⑩ゆっくりよくかんで食べることができる市民の増加
	⑪食育に関する基礎知識を有する人材の増加
	⑫食の安全性に関する正しい知識を持ち、実践している人の増加
基本方針3 ネットワークによる食育推進と食文化の継承	⑬1日のうち2回以上、家族・友人・職場・地域等、誰かと一緒に食べる人の増加
	⑭地域人材等を活用した食育活動を行っている小中学校の増加
	⑮食育推進に関わるボランティアの養成人数の増加
	⑯1日のうちに2食以上主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加(日本型食生活の継承) 【再掲】
基本方針4 地産地消の促進と環境に配慮した食育の推進	⑰小学校給食での枚方産農産物と府内農産物の使用率の増加
	⑱地元農産物直販会の開催数の増加
	⑲食品ロス削減のために何らかの行動をしている人の増加
	⑳農業体験に参加する人の増加

## 達成状況(色分け別)

A: 目標達成

B: 目標は達成していないが改善傾向

C: 悪化または変化なし

計画策定時	中間評価時	第3次計画目標値	判定	調査方法
77.0%	74.9%	90%	C	令和2年度「食」に関する市民意識調査
68.6%	70.8%	80%	B	令和2年度「食」に関する市民意識調査
0.4%	0.5%	0%	C	令和元年度枚方市3歳6か月児健康診査問診結果
小学6年生 5.9% 中学3年生 7.9% 高校生 6.6%	小学6年生 5.3% 中学3年生 7.8% 高校生 4.1%	0%	小学6年生 B 中学3年生 B 高校生 - ※	小中学生: 令和元年度全国学力学習調査 高校生: 令和2年度「食」に関するアンケート
男性 15.5% 女性 5.8%	男 7.3% 女 6.4%	男性 10% 女性 5%	- ※	大学生・専門学校生: 令和2年度「食」に関するアンケート
49.3%	42.1%	60%	C	令和2年度「食」に関する市民意識調査
56.4%	52.6%	70%	C	令和2年度 幼稚園・保育所(園)・認定こども園における食育の取り組み状況アンケート(令和元年度実績)
82.7%	81.6%	100%	C	令和2年度 幼稚園・保育所(園)・認定こども園における食育の取り組み状況アンケート(令和元年度実績)
週3回	週3回	週4回	C	令和元年度 枚方市実績
59.8%	58.7%	70%	C	令和2年度「食」に関する市民意識調査
63.1%	66.4%	75%	B	令和2年度「食」に関する市民意識調査
46.8%	51.1%	55%	B	令和2年度「食」に関する市民意識調査
4,429人/年	12,241人/年	12,000人/年	A	令和元年度 枚方市実績
22.3%	19.1%	65%	C	令和2年度「食」に関する市民意識調査
54.6%	51.8%	65%	C	令和2年度「食」に関する市民意識調査
60.9%	43.7%	80%	C	令和2年度 小中学校での食育の取り組みに関するアンケート(令和元年度実績)
—	158人	450人	-	令和元年度 枚方市実績
59.8%	58.7%	70%	C	令和2年度「食」に関する市民意識調査
33.1% (米100%、野菜6.3%)	28.2% (米79.0%、野菜8.2%)	38%	C	令和元年度 枚方市実績
829回/年	722回/年	850回/年	C	令和元年度 枚方市実績
77.3%	98.7%	85%	A	令和2年度「食」に関する市民意識調査
6,183人/年	3,687人/年	7,300人/年	C	令和元年度 枚方市実績

※新型コロナウイルス感染症の流行により策定時と異なる方法(Web アンケート調査)で実施し、参考値として取り扱ったため、達成状況の判定は行っていません。

## 第2章 最終評価について

### 1. 最終評価の概要

第3次枚方市食育推進計画は平成30年度から令和5年度までの計画のため、最終年度である令和5年度に最終評価を実施しました。

最終評価では、本計画で策定した目標の達成状況を明らかにすることにより、新たな課題や今後の取組方向を確認することを目的とし、その結果を今後策定する第4次枚方市食育推進計画や食育に関わる各種取組へ反映していきます。

#### (1) 最終評価の流れ（次期計画策定に係る審議を含む）

【令和4年度】	11月	第1回枚方市健康推進本部 食育推進部会
	11月	第1回枚方市食育推進計画審議会
	12～2月	各アンケートの実施
	3月	第2回枚方市健康推進本部 食育推進部会
	3月	第2回枚方市食育推進計画審議会
【令和5年度】	6月	第1回枚方市健康推進本部 食育推進部会
	7月	第1回枚方市食育推進計画審議会
	●月	第2回枚方市健康推進本部 食育推進部会
	●月	第2回枚方市食育推進計画審議会
	●月	第3回枚方市健康推進本部 食育推進部会
	●月	第3回枚方市食育推進計画審議会
	●月	第4回枚方市健康推進本部 食育推進部会
	●月	第4回枚方市食育推進計画審議会

#### (2) 調査の方法

評価の基礎資料となる調査については、以下のとおり各種アンケートを実施しました。

##### ■「食」に関する市民意識調査

対象者：20歳以上の市民3,000人

実施期間：令和4年12月2日～12月23日

実施方法：郵送配付し、郵送回収またはインターネット回答

有効回答数：1,273人（回収率：42.4%）

##### ■小中学生の生活習慣や歯と口の健康に関するアンケート（食に関する部分のみ抜粋）

対象者：小学6年生（8校）・中学2年生（4校）

実施期間：令和4年12月5日～令和5年2月28日

実施方法：メールでデータを送り、インターネット回答

有効回答数：1,073人（回収率：68.9%）

##### ■「食」に関するアンケート（高校は食に関する部分のみ抜粋）

対象者：高校10校（1～3年生）、大学・専門学校7校（1～4年生）の学生対象

実施期間：令和4年12月5日～令和5年1月23日

実施方法：メールでデータを送り、インターネット回答

有効回答数：1,634人



■小中学校での食育の取り組みに関するアンケート

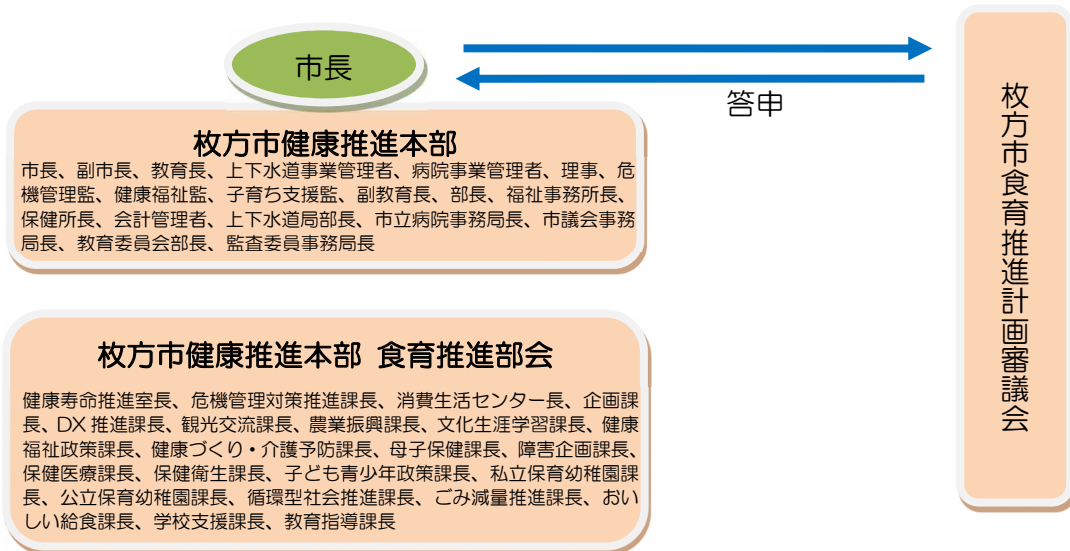
対象施設：市内公立小中学校  
 実施期間：令和4年12月2日～令和5年2月20日  
 実施方法：メールでデータを送り、インターネットまたはメール・FAX 回答  
 有効回答数：52校（回収率：82.5%）

■保育所(園)・幼稚園・認定こども園・小規模保育施設における食育の取り組み状況アンケート

対象施設：市内保育所(園)・幼稚園・認定こども園・小規模保育施設  
 実施期間：令和4年12月2日～令和5年2月20日  
 実施方法：メールでデータを送り、インターネットまたはメール・FAX 回答  
 有効回答数：92施設（回収率：95.8%）

(3) 最終評価報告書作成のための審議

枚方食育推進計画審議会にて計画の評価を実施し、最終評価報告書を作成しました。



(4) 最終評価の方法

目標項目の達成状況については、現状値はアンケート及び庁内関係各課の実績データ等を利用し、計画策定時値や目標値の比較により、以下の判定基準を用いて評価しました。

判定・目標達成度		説明
A	目標達成	目標値に達していたもの
B	目標は達成していないが改善傾向	策定時よりは数値が改善しているが、目標値には達していないもの
C	悪化または変化なし	策定時と比較し、数値に変化がないもの及び、悪化したもの

## 2. 各指標に関する評価一覧（最終評価）

第3次枚方市食育推進計画における指標に関する評価一覧

指標		計画策定時	中間評価時
包括指標	①食育に関心のある人の増加	77.0%	74.9%
	②食育活動を実践している人の増加	68.6%	70.8%
基本方針1 若い世代を中心とした食育の推進	③-1欠食のある幼児の減少	0.4%	0.5%
	③-2朝食を欠食している小中学生・高校生の減少	小学6年生 5.9% 中学3年生 7.9% 高校生 6.6%	小学6年生 5.3% 中学3年生 7.8% 高校生 4.1%
	③-3朝食を欠食している大学生・専門学校生の減少	男性 15.5% 女性 5.8%	男 7.3% 女 6.4%
	④1日のうちに2食以上主食・主菜・副菜をそろえた食事をして いる若い世代の増加(20歳代・30歳代)	49.3%	42.1%
	⑤調理・菜園活動など、体験型食育活動を行っている 保育所(園)・幼稚園・認定こども園の増加	56.4%	52.6%
	⑥保護者に対して食育の取り組みを行っている保育所(園)・幼 稚園・認定こども園の増加	82.7%	81.6%
	⑦小学校給食の米飯率の向上	週3回	週3回
基本方針2 健康寿命の延伸 につながる食育 の推進	⑧1日のうちに2食以上主食・主菜・副菜をそろえた食事をして いる人の増加(生活習慣病予防)	59.8%	58.7%
	⑨生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の 維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する市民の割合	63.1%	66.4%
	⑩ゆっくりよくかんで食べることができる市民の増加	46.8%	51.1%
	⑪食育に関する基礎知識を有する人材の増加	4,429人/年	12,241人/年
	⑫食の安全性に関する正しい知識を持ち、実践している人の増 加	22.3%	19.1%
基本方針3 ネットワークによ る食育推進と食 文化の継承	⑬1日のうち2回以上、家族・友人・職場・地域等、誰かと一緒に 食べる人の増加	54.6%	51.8%
	⑭地域人材等を活用した食育活動を行っている小中学校の増 加	60.9%	43.7%
	⑮食育推進に関わるボランティアの養成人数の増加	—	158人
	⑯1日のうちに2食以上主食・主菜・副菜をそろえた食事をして いる人の増加(日本型食生活の継承)【再掲】	59.8%	58.7%
基本方針4 地産地消の促進 と環境に配慮し た食育の推進	⑰小学校給食での枚方産農産物と府内農産物の使用率の増 加	33.1% (米100%、野菜6.3%)	28.2% (米79.0%、野菜8.2%)
	⑱地元農産物直販会の開催数の増加	829回/年	722回/年
	⑲食品ロス削減のために何らかの行動をしている人の増加	77.3%	98.7%
	⑳農業体験に参加する人の増加	6,183人/年	3,687人/年

達成状況 A: 目標達成 B: 目標は達成していないが改善傾向 C: 悪化または変化なし

現状値	第3次計画目標値	判定	調査方法
81.2%	90%	B	令和4年度 「食」に関する市民意識調査
76.0%	80%	B	令和4年度 「食」に関する市民意識調査
0.5%	0%	C	令和4年度 枚方市3歳6か月児健康診査問診結果
小学6年生 6.2% 中学3年生 9.5% 高校生 7.2%	0%	小学6年生 C 中学3年生 C 高校生 C	小中学生: 令和4年度全国学力・学習状況調査 高校生: 令和4年度「食」に関するアンケート
男性 16.6% 女性 13.5%	男性 10% 女性 5%	男性 C 女性 C (中間評価時と比較)	大学生・専門学校生: 令和4年度「食」に関するアンケート
42.2%	60%	C	令和4年度 「食」に関する市民意識調査
22.8%	70%	C	令和4年度 保育所(園)・幼稚園・認定こども園・ 小規模保育施設における食育の取り組み状況 アンケート(令和3年度実績)
66.3%	100%	C	令和4年度 保育所(園)・幼稚園・認定こども園・ 小規模保育施設における食育の取り組み状況 アンケート(令和3年度実績)
週3回	週4回	C	令和4年度 枚方市実績
57.7%	70%	C	令和4年度 「食」に関する市民意識調査
66.5%	75%	B	令和4年度 「食」に関する市民意識調査
50.4%	55%	B	令和4年度 「食」に関する市民意識調査
12,700人/年	12,000人/年	A	令和4年度 枚方市実績
47.4%	65%	-	令和4年度 「食」に関する市民意識調査
52.5%	65%	C	令和4年度 「食」に関する市民意識調査
17.3%	80%	C	令和4年度 小中学校での食育の取り組みに関 するアンケート(令和3年度実績)
188人	450人	B	令和4年度 枚方市実績
57.7%	70%	C	令和4年度 「食」に関する市民意識調査
33.9% (米100%、野菜9.1%)	38%	B	令和3年度 枚方市実績
535回/年	850回/年	C	令和4年度 枚方市実績
97.0%	85%	A	令和4年度 「食」に関する市民意識調査
3,522人/年	7,300人/年	C	令和4年度 枚方市実績

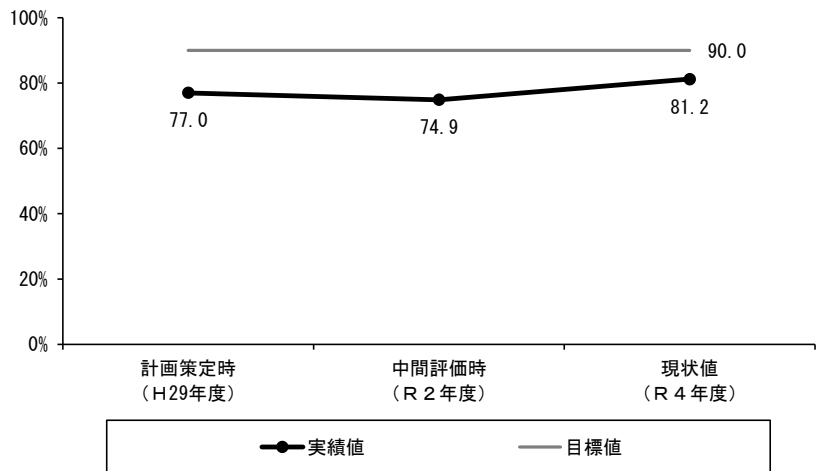
### 3. 指標ごとの達成状況

#### (1) 包括指標

項目 番号	指標	策定時値 (H29年度)	中間評価時 (R2年度)	現状値 (R4年度)	目標値 (R5年度)	達成 状況
①	食育に関心のある人の増加	77.0% (n=1,236)	74.9% (n=1,490)	81.2% (n=1,273)	90%	B

令和4年度 「食」に関する市民意識調査

食育に関心のある人については、現状値が81.2%で、策定時の77.0%より4.2ポイント増加しています。



食育に関心のある人の割合は、策定時・中間評価時と比べて増加しています。特に、男性の関心のある割合が策定時・中間評価時から高まっています。女性に関しては、策定時から80%以上で推移しています。新型コロナウイルス感染拡大中で、おうち時間の増加や自炊の頻度の増加により食育への意識が高まった可能性があると考えます。

また、国（農林水産省 消費・安全局 消費者行政・食育課 令和4年度 食育に関する意識調査）や大阪府（令和3年 健康に関する意識調査）における同指標の数値を上回っていることから、枚方市では食育の重要性が浸透しつつあると考えられます。

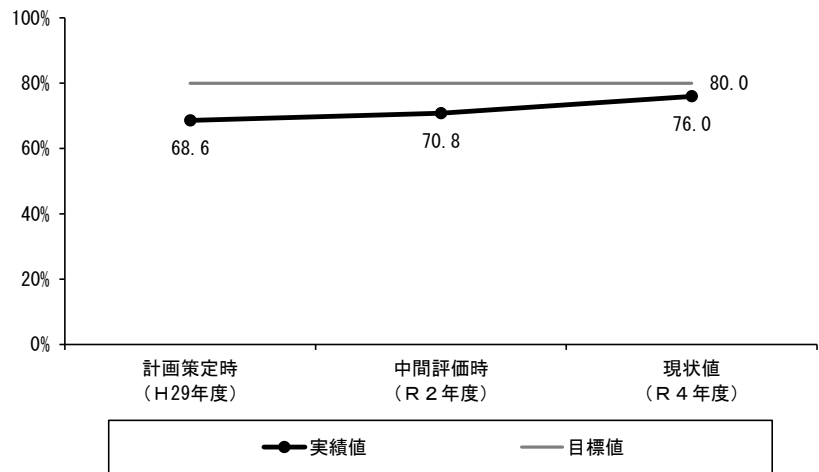
項目 番号	指標	策定時値 (H29年度)	中間評価時 (R2年度)	現状値 (R4年度)	目標値 (R5年度)	達成 状況
②	食育活動を実践している人の増加※	68.6% (n=1,236)	70.8% (n=1,490)	76.0% (n=1,273)	80%	B

令和4年度 「食」に関する市民意識調査

※食育活動とは

「食事の栄養バランスに気をつけている」「食文化やマナーを他者に伝えている」「安全な食品を購入するようにしている」「食に関して、環境への配慮をしている」「農業産業・加工活動への参加や体験をしている」「食に関する活動に参加している」のいずれかの活動のこと

食育活動を実践している人については、現状値が76.0%で、策定時の68.6%より7.4ポイント増加しています。



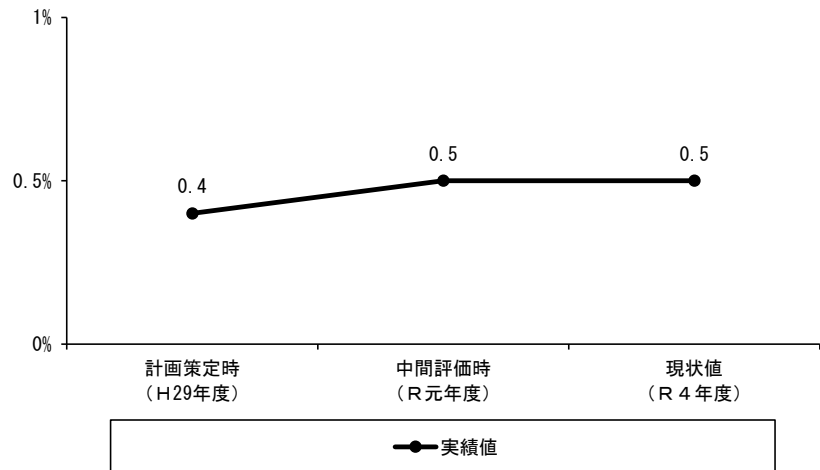
食育活動を実践している人の割合は、策定時・中間評価時と比べ増加しています。指標①における「食育に関心のある人」が増加したことにより、食育活動を実践している人の割合も増加した可能性があります。

## (2) 基本方針1 若い世代を中心とした食育の推進

項目番号	指標	策定時値 (H29年度)	中間評価時 (R元年度)	現状値 (R4年度)	目標値 (R5年度)	達成状況
③-1	欠食のある幼児の減少	0.4% (n=2,938)	0.5% (n=2,589)	0.5% (n=2,614)	0%	C

令和4年度 枚方市3歳6か月児健康診査問診結果

欠食のある幼児については、現状値が0.5%で、策定時より0.1ポイント増加していますが、概ね横ばいで推移しています。



現状値における欠食のある幼児を実人数で見ると、2,614人中13人となっています。このような場合、欠食だけでなく様々な課題を抱えている場合が多いことから、ていねいに個別対応を行っていますが、今後も一定数の人数が見込まれることが考えられます。引き続き、幼児の健全な食生活の形成のため、妊産婦を含めた幼児の保護者を対象に、乳幼児健康診査や市が実施する講座を通して望ましい生活習慣や食事内容についての啓発を行うとともに、欠食が把握できた乳幼児に関しては、個別支援を通して助言を行っていきます。

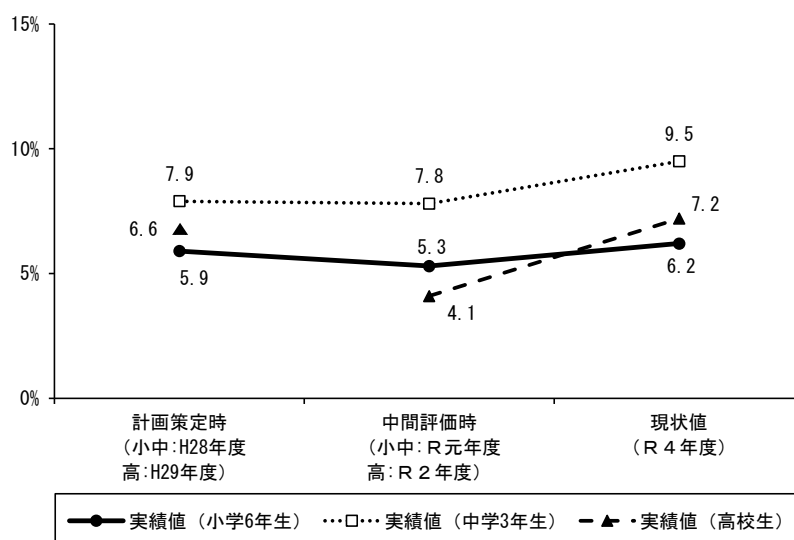
項目番号	指標	策定時値 (小中:H28年度 高:H29年度)	中間評価時 (小中:R元年度 高:R2年度)	現状値 (R4年度)	目標値 (R5年度)	達成状況
③-2	朝食を欠食している小中学生・高校生の減少	小学6年生 5.9% (n=3,613)	小学6年生 5.3% (n=3,557)	小学6年生 6.2% (n=3,215)	0%	C
		中学3年生 7.9% (n=3,527)	中学3年生 7.8% (n=3,243)	中学3年生 9.5% (n=3,140)	0%	C
		高校生 6.6% (n=1,400)	高校生 4.1% (n=987)	高校生 7.2% (n=890)	0%	C※

小中学生：令和4年度全国学力・学習状況調査  
高校生：令和4年度「食」に関するアンケート

朝食を欠食している小学生については、現状値が6.2%で策定時の5.9%から0.3ポイント増加しています。

中学生については、現状値が9.5%で策定時の7.9%から1.6ポイント増加しています。

高校生については、現状値が7.2%でポイント中間評価時の4.1%から3.1ポイント増加しています。



朝食を欠食している小中学生・高校生の割合は、策定時・中間評価時と比べ増加しています。小中学生向けのアンケートでは、概ね睡眠時間が短いほど1日のうち欠食をしている割合が高い傾向がみられました。高校生向けのアンケートでは、ゲーム・SNSの利用時間が「5時間以上」の生徒は、利用時間が短い生徒と比べ、朝食を欠食する割合が高い傾向がみられ、生活リズムが、子どもの食習慣に影響を与えている可能性があると考えられます。

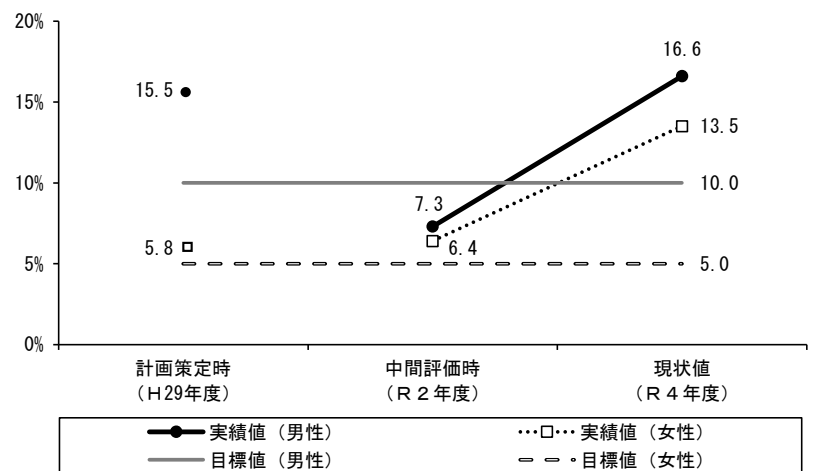
また、朝食を食べない理由として、「朝は忙しくて時間がないから」と回答した生徒が5割程度、「食欲がないから」や「少しでも長く寝ていたいから」と回答した生徒が4割程度を占め、意識面が影響を与えている可能性があります。

※高校生は、策定時のアンケートを紙で配付し対象者全員から回答を得ていましたが、中間評価時は希望者のみインターネットで回答を得ています。そのため、策定時の全員回答する方法と中間評価時の希望者のみ回答する方法では、集計結果に相違が出る可能性があることから単純比較ができないため、中間評価時は判定を行いませんでした。今回は中間評価時と同じ方法で実施したことから、中間評価時の値と比較して達成状況を判定したものです。

項目番号	指標	策定時値 (H29年度)	中間評価時 (R2年度)	現状値 (R4年度)	目標値 (R5年度)	達成状況
③-3	朝食を欠食している大学生・専門学校生の減少	男性 15.5% (n=207)	男性 7.3% (n=77)	男性 16.6% (n=247)	男性 10%	C※
		女性 5.8% (n=430)	女性 6.4% (n=356)	女性 13.5% (n=481)	女性 5%	C※

令和4年度「食」に関するアンケート

朝食を欠食している大学生・専門学校生の男性については、現状値が16.6%で中間評価時の7.3%から9.3ポイント増加しています。  
女性については、現状値が13.5%で中間評価時の6.4%から7.1ポイント増加しています。



朝食を欠食している大学生・専門学校生の割合は、策定時・中間評価時と比べ増加しています。アンケートでは、高校生と同様に SNS の利用時間が「5時間以上」の学生は、男女ともに利用時間が短い学生と比べ、朝食を欠食する割合が高い傾向がみられました。また、朝食を食べない理由として、「朝は忙しくて時間がないから」や「少しでも長く寝ていたいから」と回答した学生が6割程度を占め、意識面が影響を与えている可能性があります。

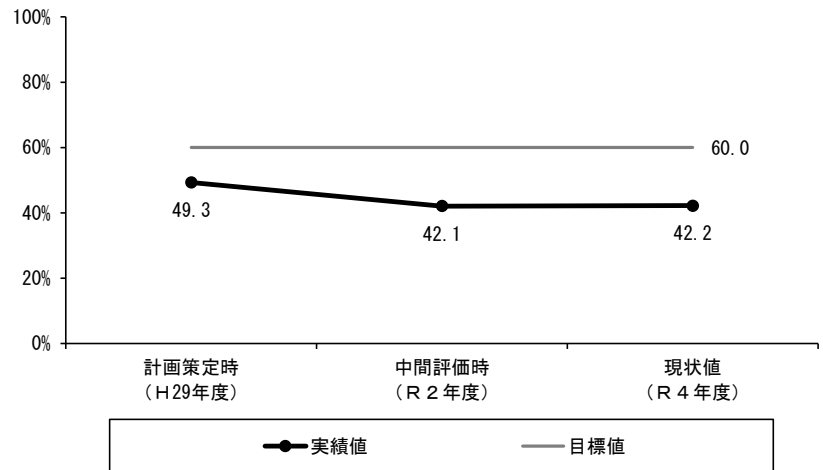
※策定時のアンケートは紙で配付し対象者全員から回答を得ていましたが、中間評価時は希望者のみインターネットで回答を得ています。そのため、策定時の全員回答する方法と中間評価時の希望者のみ回答する方法では、集計結果に相違が出る可能性があることから単純比較ができないため、中間評価時は判定を行いませんでした。今回は中間評価時と同じ方法で実施したことから、中間評価時の値と比較して達成状況を判定したものです。



項目番号	指標	策定時値 (H29年度)	中間評価時 (R2年度)	現状値 (R4年度)	目標値 (R5年度)	達成状況
④	1日のうちに2食以上主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている若い世代の増加(20歳代・30歳代)	49.3% (n=221)	42.1% (n=211)	42.2% (n=206)	60%	C

令和4年度 「食」に関する市民意識調査

1日のうち2食以上主食・主菜・副菜がそろっている20歳代・30歳代については、現状値が42.2%で策定時の49.3%から7.1ポイント減少しています。



1日のうち2食以上主食・主菜・副菜がそろっている20歳代・30歳代の割合は、策定時から減少、中間評価時から大きな変化がありません。ただし、現状値(42.2%)は全国平均(28.4%：出典 R4年度農林水産省「食育に関する意識調査報告書」と比較すると高水準になっています。

アンケート結果から食事別(朝食・昼食・夕食別)に見た場合、「そろっている」割合が最も高いのが夕食であり、昼食、朝食の順に「そろっている」割合が減少しています。特に朝食では、男女ともに「そろっている」割合は、2割未満となっています。朝食については、「朝食をほとんど食べない」割合は低く、朝食を食べているが主食・主菜・副菜が揃っていない人が多いと考えられます。

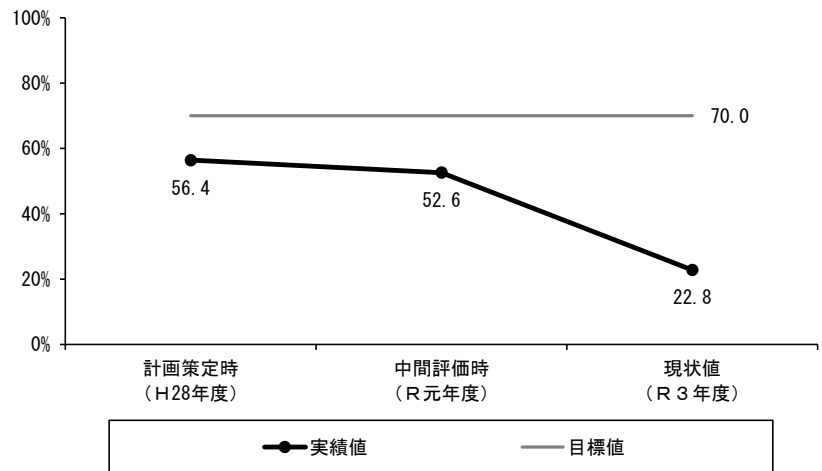
項目番号	指標	策定時値 (H28年度)	中間評価時 (R元年度)	現状値 (R3年度)	目標値 (R5年度)	達成状況
⑤	調理・菜園活動など、体験型食育活動を行っている保育所(園)・幼稚園・認定こども園の増加※	56.4% (n=81)	52.6% (n=98)	22.8% (n=92)	70%	C

令和4年度 保育所(園)・幼稚園・認定こども園・小規模保育施設における食育の取り組み状況アンケート

※体験型食育活動を行っているとは

「飼育・栽培体験」「調理体験」「一緒に食事」の3項目全て実施していること

体験型食育活動を行っている保育所(園)・幼稚園・認定こども園については、現状値が22.8%で策定時の56.4%から33.6ポイント減少しています。



調理・菜園活動など、体験型食育活動を行っている保育所(園)・幼稚園・認定こども園の割合は、策定時・中間評価時と比べ減少しています。「飼育・栽培体験」「調理体験」「一緒に食事」の全てで減少傾向がみられましたが、特に「一緒に食事」の減少幅が他2つと比べ大きくなっています。

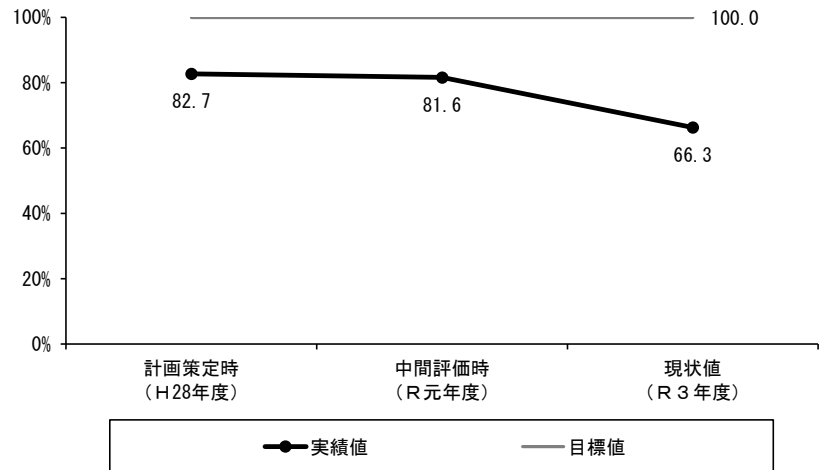
減少した理由として、新型コロナウイルス感染症対策のため、人との接触がある取り組みの抑制が影響したと考えられます。しかし、「パネルシアター」「動画」「寸劇」「近隣スーパーへの買い物」などの体験型食育活動に代わる取り組みが実施されている施設もみられました。

なお、令和4年度からは、調理・菜園活動などの体験型食育活動を再開する保育所(園)等が増えてきています。

項目 番号	指標	策定時値 (H28年度)	中間評価時 (R元年度)	現状値 (R3年度)	目標値 (R5年度)	達成 状況
⑥	保護者に対して食育の 取り組みを行っている 保育所(園)・幼稚園・ 認定こども園の増加	82.7% (n=81)	81.6% (n=98)	66.3% (n=92)	100%	C

令和4年度 保育所(園)・幼稚園・認定こども園・小規模保育施設における食育の取り組み状況アンケート

保護者に対して、食育の取り組みを行っている保育所(園)・幼稚園・認定こども園については、現状値が66.3%で策定時の82.7%から16.4ポイント減少しています。



保護者に対して食育の取り組みを行っている保育所(園)・幼稚園・認定こども園の割合は、策定時・中間評価時と比べ減少しています。減少した理由として、新型コロナウイルス感染症対策のため、人との接触がある取り組み(「給食の試食会」、「食に関する相談や学習会」等)の抑制が影響したと考えられ、特に幼稚園では保護者が園内に入れないことや給食の提供をしていなかったことで、給食献立の掲示等が実施出来ませんでした。

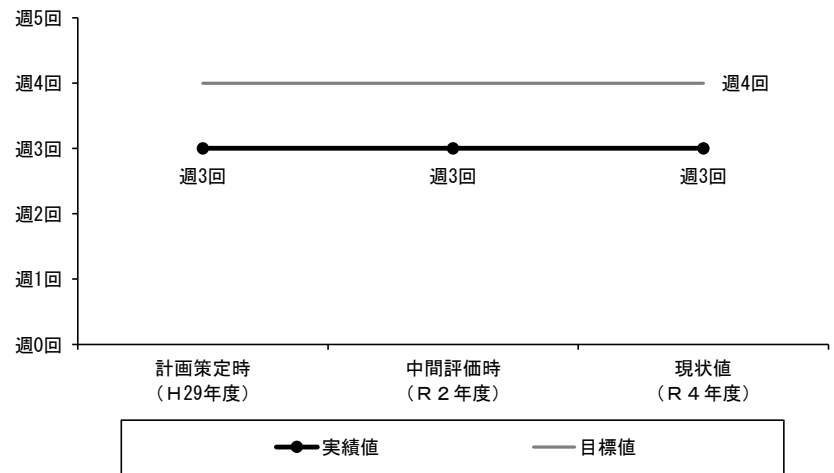
しかし、アンケートの結果からは「市職員との連携、パンフレット等の配布」「子どもの給食好評メニューの紹介とレシピ紹介」、「活動を掲示」等の情報提供が積極的に実施されている様子が伺えます。

施設によっても食育の実施状況に差がみられることから、実施している様々な食育の取り組みについて各施設で共有し、保護者への啓発を行っています。

項目番号	指標	策定時値 (H29年度)	中間評価時 (R2年度)	現状値 (R4年度)	目標値 (R5年度)	達成状況
⑦	小学校給食の米飯率の向上	週3回	週3回	週3回	週4回	C

令和4年度 枚方市実績

小学校給食の米飯率については、現状値が週3回で策定時の週3回から変化はありません。



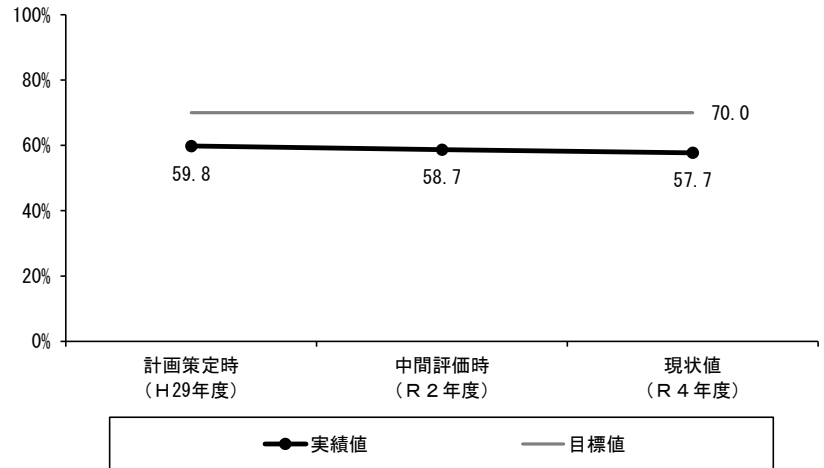
小学校給食の米飯率については、策定時・中間評価時と比べ変化がみられませんでした。その理由として、炊飯工場の設備状況では週4回の米飯の提供が難しいためとなりますが、国の目標である「週3回以上」は達成しています。

### (3) 基本方針2 健康寿命の延伸につながる食育の推進

項目番号	指標	策定時値 (H29年度)	中間評価時 (R2年度)	現状値 (R4年度)	目標値 (R5年度)	達成状況
⑧	1日のうちに2食以上主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加（生活習慣病予防）	59.8% (n=1,236)	58.7% (n=1,490)	57.7% (n=1,273)	70%	C

令和4年度 「食」に関する市民意識調査

1日のうちに2食以上主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人については、現状値が57.7%で策定時の59.8%から2.1ポイント減少しています。



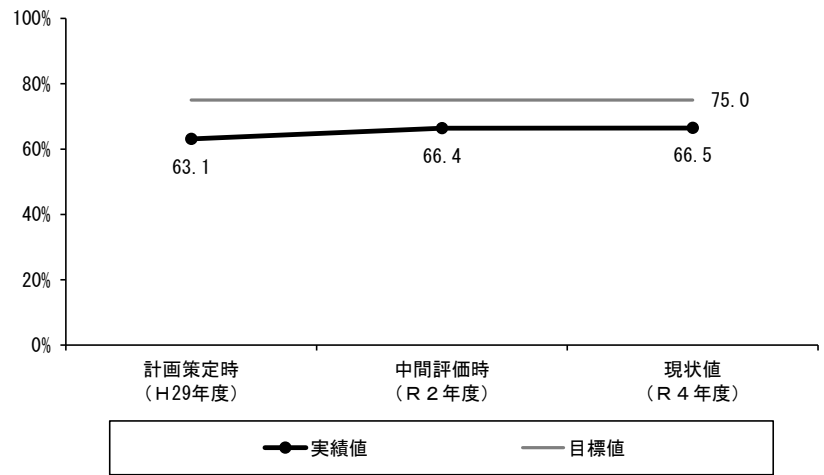
1日のうちに2食以上主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の割合は、策定時・中間評価時と比べ減少しています。ただし、現状値（57.7%）は全国平均（40.6%：出典 R4年度農林水産省「食育に関する意識調査報告書」）と比較すると高水準になっています。

アンケート結果を食事別（朝食・昼食・夕食別）に見た場合、朝食と昼食で「そろっている」割合が5割未満となっています。また、年齢別にみた場合、朝食では年齢が上がるにつれて「そろっている」割合が高くなる傾向があります。

項目番号	指標	策定時値 (H29年度)	中間評価時 (R2年度)	現状値 (R4年度)	目標値 (R5年度)	達成状況
⑨	生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する市民の割合	63.1% (n=1,236)	66.4% (n=1,490)	66.5% (n=1,273)	75%	B

令和4年度 「食」に関する市民意識調査

生活習慣病予防のためや改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践している人については、現状値が66.5%で、策定時の63.1%から3.4ポイント増加しています。



ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践している人の割合は、策定時・中間評価時と比べ増加しています。アンケート結果から、性別で見ると男性では増加傾向にあり、女性では大きな変化がみられませんでした。性別・年齢別で見ると男女ともに20歳代の数値が、他の年代に比べ低く、20歳代以外の年代では目標値に達していないものの高い割合となっています。

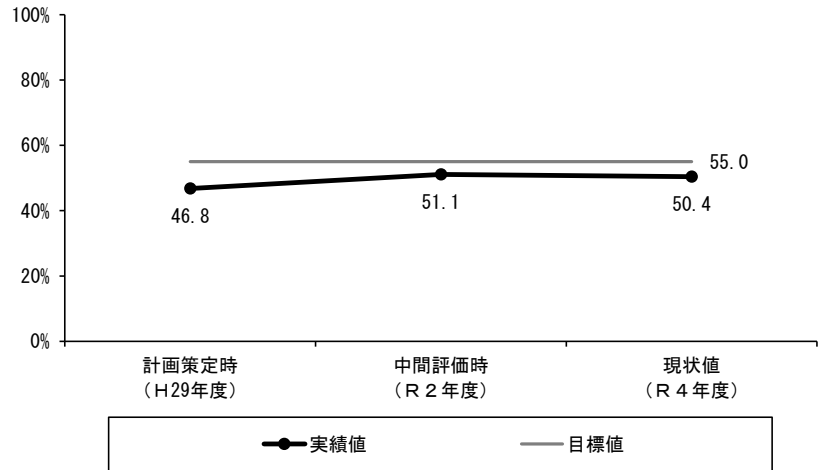
	合計 (人)	単位：%				
		実践している	実践している	実践していない	実践していない	無回答
全体	1,273	17.6	48.9	28.4	4.2	0.9
男性全体	413	14.0	47.9	31.2	5.8	1.0
20歳代	24	8.3	25.0	37.5	29.2	0.0
30歳代	36	11.1	41.7	38.9	8.3	0.0
40歳代	48	12.5	45.8	41.7	0.0	0.0
50歳代	65	12.3	46.2	32.3	9.2	0.0
60歳代	74	10.8	50.0	33.8	5.4	0.0
70歳代	108	15.7	57.4	22.2	1.9	2.8
80歳代以上	54	20.4	46.3	27.8	3.7	1.9
女性全体	765	19.0	49.5	27.1	3.5	0.9
20歳代	57	8.8	28.1	45.6	17.5	0.0
30歳代	84	8.3	56.0	31.0	4.8	0.0
40歳代	106	11.3	53.8	33.0	0.9	0.9
50歳代	138	25.4	41.3	31.9	1.4	0.0
60歳代	120	19.2	51.7	25.8	3.3	0.0
70歳代	179	21.8	58.1	16.2	2.8	1.1
80歳代以上	78	29.5	44.9	19.2	1.3	5.1

※出典：「食」に関する市民意識調査

項目番号	指標	策定時値 (H29年度)	中間評価時 (R2年度)	現状値 (R4年度)	目標値 (R5年度)	達成状況
⑩	ゆっくりよくかんで食べることができる市民の増加	46.8% (n=1,236)	51.1% (n=1,490)	50.4% (n=1,273)	55%	B

令和4年度 「食」に関する市民意識調査

ゆっくりよくかんで食べることができる市民については、現状値が50.4%で策定時の46.8%から3.6ポイント増加しています。



ゆっくりよくかんで食べることができる人の割合は、策定時と比べると増加しています。アンケート結果を年代別で見ると、男性30歳代～50歳代と女性30歳代～40歳代の青年期・壮年期で割合が低くなっています。

単位：%

	合計 (人)	食 ゆ へ て い り よ く か ん で	食 ゆ ど ち ら か と い え ば で	食 ゆ ど ち ら か と い え ば で	食 ゆ ど ち ら か と い え ば で	無 回 答
全体	1,273	11.8	38.6	39.2	9.5	0.9
男性全体	413	10.7	31.7	45.8	10.9	1.0
20歳代	24	12.5	41.7	33.3	8.3	4.2
30歳代	36	11.1	27.8	44.4	16.7	0.0
40歳代	48	10.4	27.1	52.1	10.4	0.0
50歳代	65	3.1	26.2	55.4	15.4	0.0
60歳代	74	6.8	37.8	43.2	12.2	0.0
70歳代	108	11.1	26.9	50.0	10.2	1.9
80歳代以上	54	22.2	42.6	29.6	3.7	1.9
女性全体	765	12.5	41.7	36.2	8.8	0.8
20歳代	57	15.8	24.6	35.1	24.6	0.0
30歳代	84	7.1	31.0	44.0	16.7	1.2
40歳代	106	9.4	34.0	47.2	8.5	0.9
50歳代	138	10.1	45.7	36.2	8.0	0.0
60歳代	120	11.7	35.0	46.7	6.7	0.0
70歳代	179	13.4	52.5	29.1	4.5	0.6
80歳代以上	78	24.4	53.8	14.1	3.8	3.8

※出典：「食」に関する市民意識調査

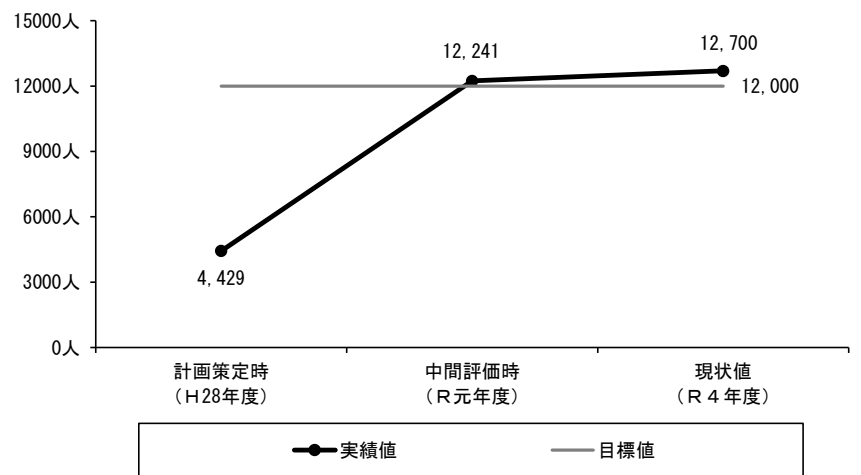
項目番号	指標	策定時値 (H28年度)	中間評価時 (R元年度)	現状値 (R4年度)	目標値 (R5年度)	達成状況
⑪	食育に関する基礎知識を有する人材の増加※	4,429人	12,241人	12,700人	12,000人	A

令和4年度 枚方市実績

※食育に関する基礎知識を有する人材とは

食に関する知識を啓発するための冊子「ひらかた食育 Q&A」の配付数

食育に関する基礎知識を有する人材については、現状値が12,700人/年で、策定時の4,429人/年から大幅に増加しています。



食育に関する基礎知識を有する人材についての割合は、策定時と比べ増加、中間評価時と比べほぼ横ばいで推移しています。

第3期計画に基づき、食に関する基礎知識の習得を拡充させるため、新たに幼児用と中高生用の「ひらかた食育 Q&A」を作成配付したことで、策定時と比べ配付実績を大きく増加しました。





項目番号	指標	策定時値 (H29年度)	中間評価時 (R2年度)	現状値 (R4年度)	目標値 (R5年度)	達成状況
⑫	食の安全性に関する正しい知識を持ち、実践している人の増加 <sup>※1</sup>	22.3% (n=1,236)	19.1% (n=1,490)	47.4% (n=1,273)	65%	— <sup>※2</sup>

令和4年度 「食」に関する市民意識調査

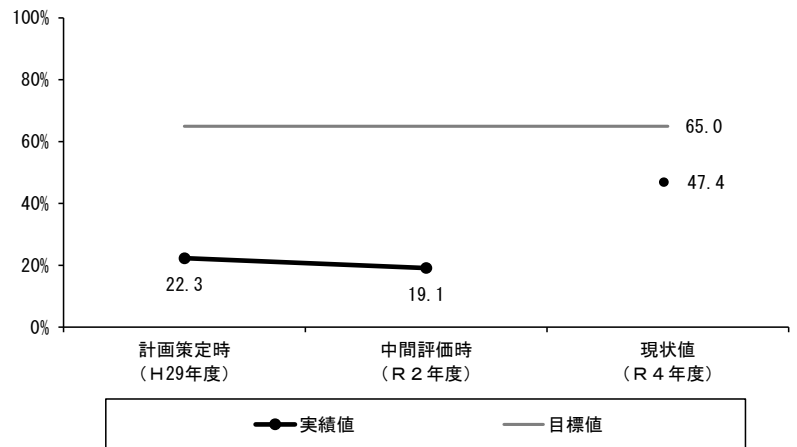
※1 食の安全性に関する正しい知識を持ち、実践している人とは

「食品表示をみて食品を購入」「食中毒予防の三原則を知っている」「調理前に手を洗う」の3項目全て該当する人

※2 策定時・中間評価時のアンケートと設問形式を変更したことにより、単純な比較による判定は難しいため達成状況は記載しておりません。

食の安全性に関する正しい知識を持ち、実践している人については、現状値が47.4%となっています。

各項目別でみると、②「食中毒予防の三原則を知っている」割合が6割未満となっていますが、他2項目では目標値を上回っており、多くの人が日ごろから食の安全性を意識していることがうかがえます。また、食中毒予防の三原則である「つけない」「増やさない」「やっつける」の3項目のうち、すべての項目で1つ以上実践している人の割合は84.3%と



なっており、三原則は知らないけれども実践している人は多い結果となっています。

食中毒予防の三原則（つけない・増やさない・やっつける）実施内容

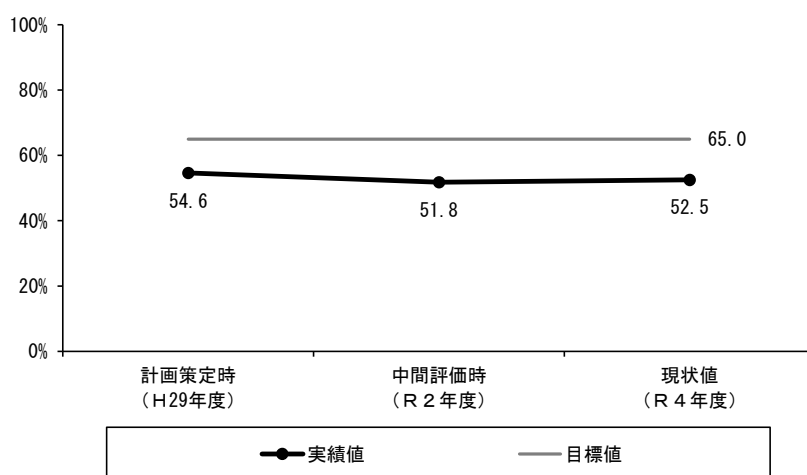
つけない
1 購入した食品は、肉汁や魚などの汁がもれないようビニール袋に分けて持ち帰る
2 食品を取り扱う前には必ず石鹸で手洗い、肉、魚、卵を取り扱った後も手を洗う
3 肉や魚を切った包丁やまな板は、洗って熱湯などで消毒してから生で食べる野菜や果物に使っている
増やさない
1 生鮮食品などの冷蔵品等を購入した際は、寄り道はせずまっすぐ家に帰る
2 食品は食中毒菌が増殖しないよう、冷蔵では10℃以下、保温する時は65℃以上で保存している
3 調理した食品は室温に放置せず早めに食べている
やっつける
1 加熱して調理する食品は十分に加熱している

#### (4) 基本方針3 ネットワークによる食育推進と食文化の継承

項目番号	指標	策定時値 (H29年度)	中間評価時 (R2年度)	現状値 (R4年度)	目標値 (R5年度)	達成状況
⑬	1日のうち2回以上、 家族・友人・職場・地域等、誰かと一緒に食べる人の増加	54.6% (n=1,236)	51.8% (n=1,490)	52.5% (n=1,273)	65%	C

令和4年度 「食」に関する市民意識調査

1日のうち2回以上、家族・友人・職場・地域等、誰かと一緒に食べる人については、現状値が52.5%で策定時の54.6%から2.1ポイント減少しましたが、ほぼ横ばいとなっています。



アンケート結果からは、新型コロナウイルス感染症の拡大により共食の機会が大きく減少するほどの影響が見当たりませんでした。

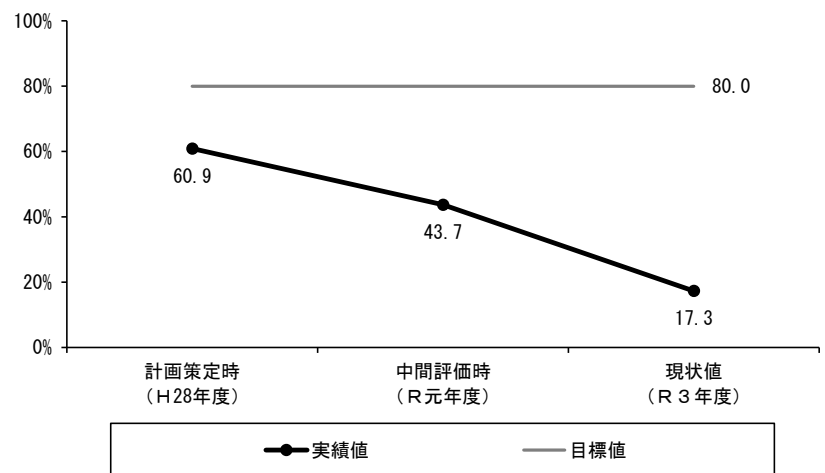
項目番号	指標	策定時値 (H28年度)	中間評価時 (R元年度)	現状値 (R3年度)	目標値 (R5年度)	達成状況
⑭	地域人材等を活用した食育活動を行っている小中学校の増加※	60.9% (n=64)	43.7% (n=64)	17.3% (n=52)	80%	C

令和4年度 小中学校での食育の取り組みに関するアンケート（令和3年度実績）

※地域人材とは

農業関係者や食品関連事業者、各種ボランティア、NPO等、食に関わる専門的な知識や技能を有する人

地域人材等を活用した食育活動を行っている小中学校については、現状値が17.3%で策定時の60.9%から43.6ポイント減少しています。



地域人材等を活用した食育活動を行っている小中学校の割合は、策定時・中間評価時と比べ減少しています。新型コロナウイルス感染症対策のため、地域人材等を活用した食育活動に関する講座が実施できなかったことから、減少したと考えられます。



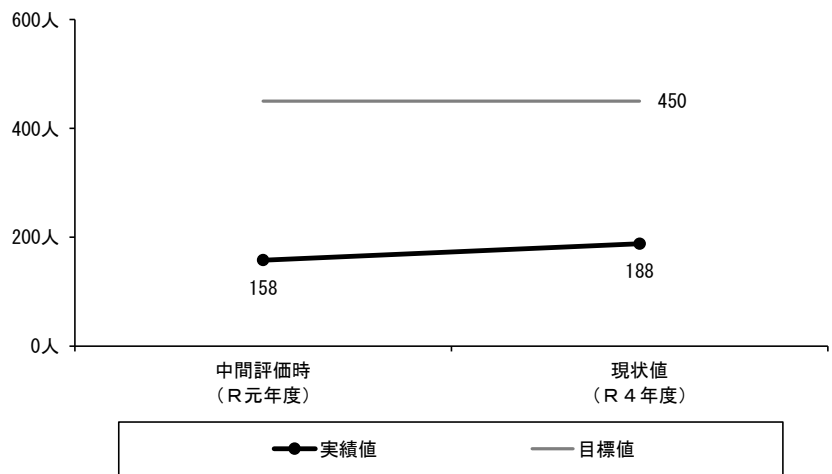
項目番号	指標	策定時値 (H29年度)	中間評価時 (R元年度)	現状値 (R4年度)	目標値 (R5年度)	達成状況
⑮	食育推進に関わるボランティアの養成人数の増加※	-	158人	188人	450人	B

令和4年度 枚方市実績

※食育推進に関わるボランティアの養成人数とは

「健康づくりボランティア講座」及び「いきいきサロン健康づくりサポーター」の受講者数

食育推進に関わるボランティアの養成人数については、現状値が188人で、令和元年度の158人から30人増加しています。



食育推進に関わるボランティアの養成人数の割合は、中間評価時から増加しています。しかし、新型コロナウイルス感染症対策のため、ボランティア養成のための各講座の実施回数が少なかったため、養成人数が伸び悩んだと考えられます。

## 健康づくり ボランティア講座 受講生募集中

先着20名 参加費無料

「ヘルスマイト（健康づくり食生活改善協議会）」や「健康リーダー」になって  
枚方市に健康の輪を広げよう

講座について

対象：枚方市民 実施場所：枚方市保健センター

日程	日時	内容
第1日程	令和5年9月7日(木)	全日程 13:30~16:00 枚方市が推進する健康づくりについて学びます
第2日程	9月21日(木)	アリエンテーション・枚方市の健康づくりの取り組みについて 他
第3日程	10月5日(木)	理学療法士と実践！運動の源泉について 他
第4日程	10月19日(木)	作業療法士と楽しく学ぶ認知症予防について 他
第5日程	11月9日(木)	管理栄養士によるバランスのよい食事について 他
第5日程	11月9日(木)	まとめ

申込締切  
6月30日

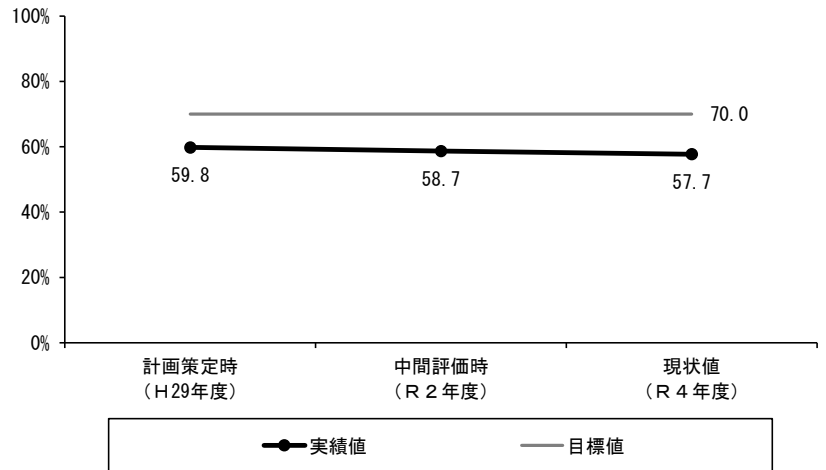
**申し込み・お問い合わせ**

電話・FAX・メール（住所・氏名・生年月日・電話番号・メールアドレス・応募動機を明記）にて、  
「健康づくりボランティア講座」係まで  
メールアドレス：[kenkokaigo@city.hirakata.osaka.jp](mailto:kenkokaigo@city.hirakata.osaka.jp)  
TEL: 841-1458 FAX: 840-4496  
担当課 枚方市健康づくり・介護予防課

項目番号	指標	策定時値 (H29年度)	中間評価時 (R2年度)	現状値 (R4年度)	目標値 (R5年度)	達成状況
⑯	1日のうちに2食以上主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加(日本型食生活の継承) 【⑧再掲】	59.8% (n=1,236)	58.7% (n=1,490)	57.7% (n=1,273)	70%	C

令和4年度 「食」に関する市民意識調査

1日のうちに2食以上主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人については、現状値が57.7%で策定時の59.8%から2.1ポイント減少しています。



アンケート結果を食事別(朝食・昼食・夕食別)にみた場合、夕食で「そろっている」割合が8割と高くなっています。また夕食でよく食べる主食については、ごはんを主食とする割合が8割程度となっています。ごはんを主食とした場合、主菜や副菜が「そろっている」割合が高いことから、日本型食生活を推進する必要があると考えます。

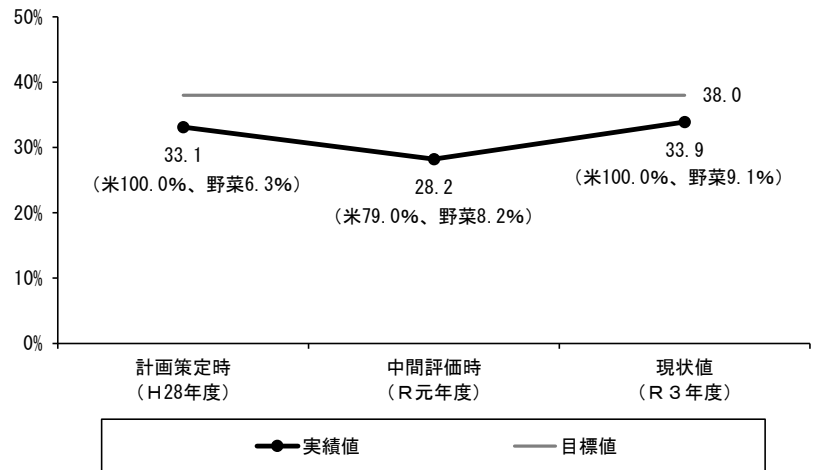


## (5) 基本方針4 地産地消の促進と環境に配慮した食育の推進

項目番号	指標	策定時値 (H28年度)	中間評価時 (R元年度)	現状値 (R3年度)	目標値 (R5年度)	達成状況
⑰	小学校給食での枚方産農産物と府内農産物の使用率の増加	33.1% (米100%・野菜6.3%)	28.2% (米79.0%・野菜8.2%)	33.9% (米100%・野菜9.1%)	38%	B

枚方市 令和3年度実績

小学校給食での枚方産農産物と府内農産物の使用率については、現状値が33.9%で策定時の33.1%から0.8ポイント増加しています。



小学校給食での枚方産農産物と府内農産物の使用率については、策定時・中間評価時と比べ増加しています。米、野菜については市内生産者の協力を得て枚方産及び府内産購入・使用量が増加しています。

農産物については気象状況の影響や、生産者の高齢化等による生産規模の縮小から、学校給食での品目・使用量も減少しつつある点が課題となっています。

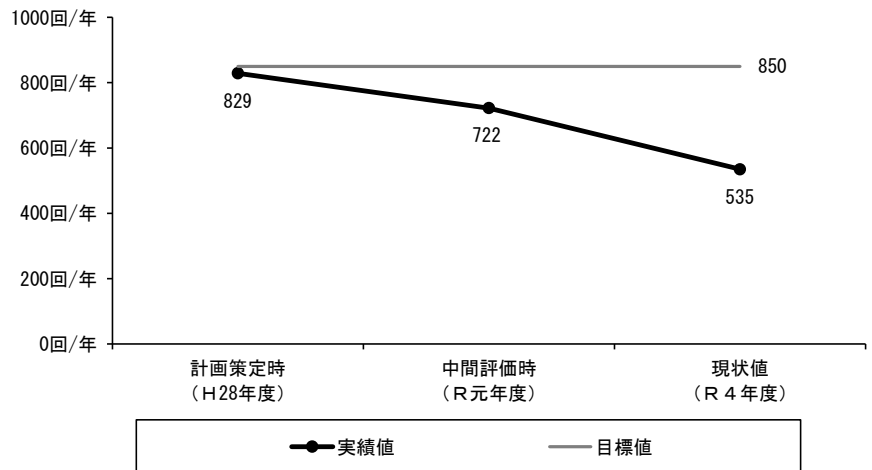


枚方産大根を使用した学校給食  
(みそおでん)

項目番号	指標	策定時値 (H28年度)	中間評価時 (R元年度)	現状値 (R4年度)	目標値 (R5年度)	達成状況
⑱	地元農産物直販会の開催数の増加	829回	722回	535回	850回	C

枚方市 令和4年度実績

地元農産物直販会の開催数に関しては、現状値が535回/年で策定時の829回/年から315回/年減少しています。



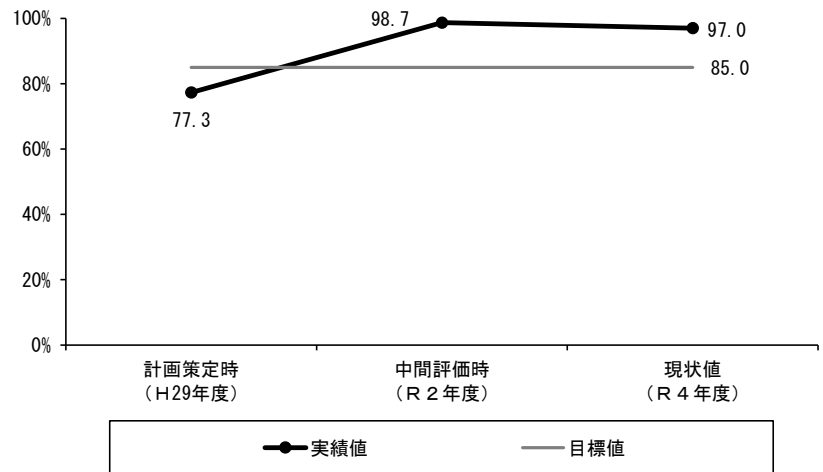
地元農産物直販会の開催数については、策定時・中間評価時と比べ減少しています。減少した理由としては、農業従事者の高齢化及び出店団体の減少に加え、新型コロナウイルス感染症対策のため農産物直販会の実施回数が減少したことが考えられます。



項目番号	指標	策定時値 (H29年度)	中間評価時 (R2年度)	現状値 (R4年度)	目標値 (R5年度)	達成状況
⑱	食品ロス削減のために何らかの行動をしている人の増加	77.3% (n=1,236)	98.7% (n=1,490)	97.0% (n=1,273)	85%	A

令和4年度 「食」に関する市民意識調査

食品ロス削減のために何らかの行動をしている人（1項目以上実施している人）の増加については、現状値が97.0%で策定時の77.3%から19.7ポイント増加しています。



食品ロス削減のために何らかの行動をしている人の割合は、目標値を達成しました。本市では、4R（リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル）事業の一環として「食べのこサンデー」の取り組みを実施していますが、より具体的な行動を実施している市民を増やすことを目的に、引き続きこれらの啓発を行っていく必要があります。

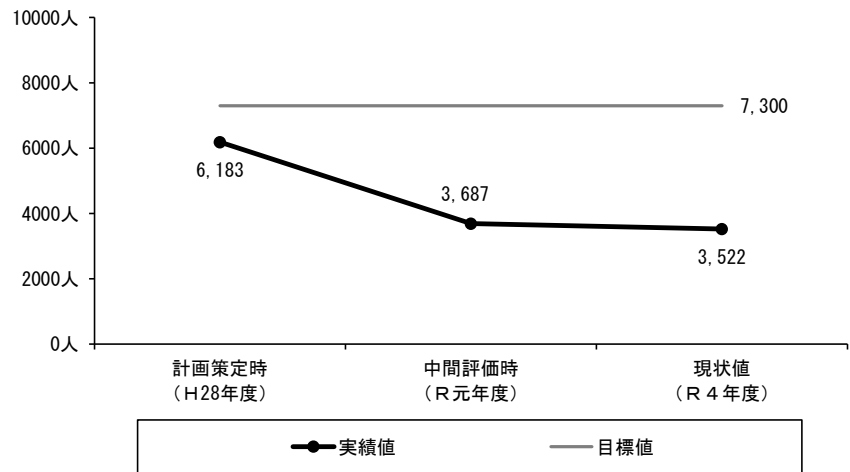
今回のアンケートにおいて、何らかの行動をしている人のうち、2項目以上を実施している人の割合は、90.7%、3項目以上を実施している人の割合は76.4%でした。



項目番号	指標	策定時値 (H28年度)	中間評価時 (R元年度)	現状値 (R4年度)	目標値 (R5年度)	達成状況
⑳	農業体験に参加する人の増加	6,183人/年	3,687人/年	3,522人/年	7,300人/年	C

令和4年度 枚方市実績

農業体験に参加する人については、現状値が3,522人/年から策定時の6,183人/年から2,661人/年減少しています。



農業体験に参加する人の割合は、策定時・中間評価時と比べ減少しています。減少した理由として、農業従事者の高齢化及び農地の減少に加え、新型コロナウイルス感染症対策による農業体験の中止・人数制限・回数減少等が考えられます。



## 第3章 最終評価からみえてきた課題と今後の取組の方向性

### 1. 計画期間における社会環境の動向

#### (1) 社会の動向

食育に関する施策を推進するため、平成30年に「第3次枚方市食育推進計画」を策定し、さまざまな関係機関と連携を図り、食育に関する取り組みを実施するとともに、令和3年3月に中間評価を行い、最終年度に向けて優先的な課題をかがげ、食育推進施策の取り組みを推進してきました。

本計画期間中には、「新型コロナウイルス（COVID-19）感染症の流行」や「SDGs（持続可能な開発目標）の策定」をはじめ、本市の食育推進施策にも強く影響を与える社会環境の変化が生じました。

#### ① 新型コロナウイルス（COVID-19）感染症の流行

令和元年の12月に中国湖北省武漢市において、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染者が初めて確認されて以降、全世界に感染が広がり日本でも新型コロナウイルス感染症の感染が拡大しました。

感染症拡大防止のために、内閣総理大臣は令和2年4月に緊急事態宣言を発出し、以降、計4回の緊急事態宣言が大阪府下に発出されました。感染症拡大防止のために、人々の物理的な接触を避ける「フィジカル・ディスタンス」が推奨され、仕事においてはテレワーク等の活用により、勤務場所に出勤する人数を通常時の50%以下とすることが目標として打ち出されました。また、教育機関においても、臨時休校や部活動等が活動停止となる期間がありました。

このように新型コロナウイルス感染症の流行は、飛沫感染防止のために、マスクの着用（マスク会食など）が推奨されるなど「新しい生活様式」が提唱されることで、「外食頻度」の減少や「中食」の増加等の傾向が見られるようになり、家庭での食事を見つめなおす機会にもなり、食育の推進においても大きな影響を受けました。

本市が令和4年12月に実施した「食に関する市民意識調査」では、新型コロナウイルス感染症の拡大による食育への影響を確認するため、感染拡大前後の食習慣等について確認しました。

次ページの表に示す通り「2.外食の頻度」では減ったと回答する市民が64.8%であり、感染拡大防止のために講じられた外出自粛により大きな影響を受けた食習慣の一つと言えます。この他、外出自粛により影響を受けたと考えられる食習慣としては、「3.中食の頻度」「4.自炊の頻度」「6.間食の量」「8.家族と一緒に食事をする機会」「10.体重の増減」が考えられます。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大前から本アンケートを実施した時点で約3年の期間が経過しているため、加齢等による新型コロナウイルス感染症の拡大以外の影響を受けている可能性もありますが、新型コロナウイルス感染症の影響も否定はできない結果となりました。

## 新型コロナウイルス感染症拡大前後の食生活の意識・行動についての変化

	増えた	変わらない	減った	無効・無回答
1.食事の回数	3.5%	90.7%	2.5%	3.2%
2.外食の頻度	1.4%	30.4%	64.8%	3.4%
3.中食の頻度	19.2%	64.1%	12.6%	4.1%
4.自炊の頻度	22.9%	70.1%	3.6%	3.4%
5.野菜の摂取量	10.8%	80.5%	5.5%	3.1%
6.間食の量	16.0%	70.7%	10.2%	3.1%
7.飲酒量や頻度	7.0%	66.8%	18.4%	7.8%
8.家族と一緒に食事をする機会	13.8%	73.0%	9.0%	4.2%
9.減塩に対する意識	意識するようになった 20.0%	変わらない 74.8%	意識しないようになった 2.1%	3.1%
10.体重の増減	19.2%	64.8%	11.7%	4.2%

※出典：令和4年度 「食」に関する市民意識調査

### ②SDGs（持続）可能な開発目標

SDGs とは、2015 年 9 月の国連サミットで採択された国際社会全体の開発目標で、17 の目標と 169 のターゲットから構成されており、2030 年までに誰一人取り残さない世界の実現を目指すとされています。国においても「SDGs アクションプラン 2021」の中に位置づけられ、食育の推進は SDGs の達成に寄与するものとされています。

SDGs の目標のなかには、「目標②飢餓をゼロに」「目標④質の高い教育をみんなに」「目標⑩持続可能な生産消費形態の確保」など、食育と関係している目標が複数あります。

本市においては、令和3年7月に枚方市 SDGs 取組方針を策定し、SDGs と連動させて本市総合計画に基づく施策を展開していくこととしており、健康増進に係る取り組みにおいて、SDGs の「目標3：すべての人に健康と福祉を」をはじめ、17 の目標を統合的に解決する視点を持った横断的な取り組みが求められています。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



## (2) 国の動向

### 第4次食育推進基本計画の策定

食育基本法に基づき、令和3～7年度の5年間の計画期間とする第4次食育推進基本計画が策定されました。第4次食育推進基本計画では、重点事項として(1)生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進、(2)持続可能な食を支える食育の推進、(3)「新たな日常」やデジタル化に対応した食育の推進を柱にSDGsの考え方を踏まえ、総合的かつ計画的に食育を推進するとしています。

上記の重点事項の推進により、多様化する暮らしや国民それぞれのライフステージ・ライフスタイルに対応しつつ、国民の健全な食生活の実現と食環境・食文化を意識した持続可能な社会の実現を目指すとしています。

## 2. 本計画の総合評価

### 基本方針ごとの目標の達成状況

目標の達成状況については、A(目標達成)が2項目(8.3%)、B(目標は達成していないが改善傾向)が6項目(25.0%)、C(悪化または変化なし)が16項目(66.7%)となっています。

	A (目標達成)	B (目標は達成していないが改善傾向)	C (悪化または変化なし)	合計
包括指標	0	2 (100.0%)	0	2 (100.0%)
基本方針1 若い世代を中心とした食育の推進	0	0	10 (100.0%)	10 (100.0%)
基本方針2 健康寿命の延伸につながる食育の推進	1 (25.0%)	2 (50.0%)	1 (25.0%)	4 (100.0%)
基本方針3 ネットワークによる食育推進と食文化の継承	0	1 (25.0%)	3 (75.0%)	4 (100.0%)
基本方針4 地産地消の促進と環境に配慮した食育の推進	1 (25.0%)	1 (25.0%)	2 (50.0%)	4 (100.0%)
合計	2 (8.3%)	6 (25.0%)	16 (66.7%)	24 (100.0%)

## (1)「基本方針1. 若い世代を中心とした食育の推進」に対する評価

指標のうち、10個がC判定（悪化または変化なし）となっており、要因の一つには、新型コロナウイルス感染症拡大による多くの食育啓発の取り組みの中止・制限の影響もあったと考えられます。

優先課題であった指標④「1日のうちに2食以上、主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている若い世代の増加（20歳代・30歳代）」については、食についての基礎的な知識に関する問題集（食育Q&A）の配付による啓発、食に対して無関心な層への啓発としておすすめレシピ、食や栄養に関するポイントを広報誌・Youtube・COOKPADで発信するなどの取り組みを行う等で、食育に関心のない人や、関心を持っていない人でもバランスの良い食事を選ぶことができるよう食環境づくりに努めました。また、毎月19日の食育の日にSNSを活用し広く市民に食の大切さを啓発してきました。

主な取り組みとして、妊産婦や乳幼児向けの講座や実習では、妊娠期及び産後に向けての望ましい家庭での生活習慣や栄養、食生活に関する講座の開催（新型コロナウイルス感染症拡大後は、オンラインで一部教室を開催）や離乳食や幼児食に関する講座や調理実習を開催し啓発を実施してきました。それ以外にも乳幼児健康診査や健康相談の場で、子どもの生活習慣や食事に関する相談や啓発、健康フェア（大学）にて朝食摂取の啓発などに努めました。

また、保育所（園）・幼稚園・認定こども園・小規模保育施設・学校では、乳幼児期からの適切な食事のとり方や望ましい食習慣の定着、豊かな人間性の育成等を図るため、保育所（園）・幼稚園・認定こども園・小規模保育施設にて、季節の野菜を栽培収穫し、調理体験等を実施したり、各校で作成した「食に関する指導の全体計画」に基づき各教科と関連づけながら、栄養指導教諭による給食便りの発行、食育についての授業を実施しました。

毎年恒例の食育カーニバルについては、新型コロナウイルス感染拡大をきっかけにWEB開催とし、参加団体作成の動画や講演会のアーカイブ配信など、若い世代にも閲覧しやすい環境を整えるとともに、保育所幼稚園等ではアプリを活用した情報発信の推進など、インターネットやSNS等を活用し、効果的な情報発信をすすめることができました。

子どもの朝食の欠食に関しては、生活リズムを整えるよう周知啓発するとともに、保護者の食習慣が子どもの食習慣に与える影響が大きいことから、保護者に対する朝食の摂取を含む規則正しい生活習慣の啓発に努めています。

## (2)「基本方針2. 健康寿命の延伸につながる食育の推進」に対する評価

指標のうち、1つがA判定(目標達成)、2つがB判定(目標は達成していないが改善傾向)となり、各指標で概ね改善傾向がみられました。新型コロナウイルス感染症拡大で制限されながらも対面での教室、講座、相談等や、また Web による情報発信、冊子の配布等による取り組みを推進した結果、改善傾向につながったと考えられます。

優先課題であった指標⑨「生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する市民の割合の増加」については、生活習慣病予防のための教室の実施、個別の栄養相談等の取り組みを行った結果、改善傾向がみられました。しかし、男女ともに20歳代の若い世代の割合が低い傾向にあるため、若年層向けの情報発信・啓発の取り組みを検討する必要があります。

主な取り組みとして、生活習慣病予防のための個別の栄養相談(食生活指導)や、バランスの良い食事や減塩についての生活習慣病予防のための教室の実施、高齢者の低栄養の改善および口腔機能の向上を目的としたまんてん教室を実施しました。また、8020 達成者表彰として、枚方市歯科医師会と連携し、20 歯以上の健全な歯を持つ80 歳以上の方を表彰することで、市民に対する歯育推進の啓発に努めました。歯の健康管理面では、むし歯予防対策として、児童に正しい歯の磨き方を習得させるため、歯科衛生士による枚方市立小学校へのブラッシングの巡回指導並びに歯に対する一般的な指導を実施。衛生管理・生産者向けでは衛生指導として、学校給食調理場を立入検査し、調理担当者等に対して研修を実施し、特定多数人に向けて継続的に食事を提供する施設に対して、施設管理者及び給食関係者等に栄養改善の見地から必要な指導を行い、給食内容の向上を図るとともに、喫食者に対しても給食を通じた健康づくりを推進しました。

食を取り巻く環境整備としては、食育 Q&A や枚方キッチンの冊子等の配付、飲食店にバランスのよい食材の選び方のポスター掲示等だけでなく、市内飲食店と協力し、ヘルシーメニューコンテスト応募メニューとして調整を行い、市民が外食でも栄養バランスの取れた食生活を実践できるよう環境整備に努めてきました。

### (3)「基本方針3. ネットワークによる食育推進と食文化の継承」に対する評価

指標のうち、3つがC判定（悪化または変化なし）となっており、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、農業や食育にまつわる各種イベントが中止・制限された影響を大きく受けた結果と考えられます。

取り組みとしては、小さい頃から郷土料理や行事食による食文化に慣れ親しむため、学校給食において郷土料理・行事食の提供や、給食だよりやホームページなどを通じて情報を発信し、郷土料理等について授業で触れるとともに、行事食等について、毎月給食だよりを発行。食文化の継承のための学びや体験する機会を支援しました。また、楽しい食育体験を積み重ねられるよう、子どもたちに食事や学習支援や団らんの場の提供を行い、子どもたちを見守る活動に取り組む団体を支援し、自然と正しい食生活の実践につながるよう努めました。食育環境づくりの面においては、地区組織活動を実践する人材の育成として、健康づくり食生活改善推進員（ヘルスマイト）や健康リーダーなどの健康づくりボランティアの養成、飲食店を通じた健康づくり事業として、健康メニューの提供や啓発ポスターの配布を実施しました。また、イベントとして、市民の食育への関心を高めることを目的に、関係機関・団体と連携し、「ひらかた食育カーニバル」を開催しました。令和3年度は、オンライン開催で期間限定の特設サイトに各団体が作成したコンテンツを掲載し、ライブ調理やオンラインセミナーの配信を実施しました。また、国内友好都市や市民交流都市の野菜や海産物、乳製品等その都市の特産物を販売しました。

開催回数は減ったものの農業体験、イベント、料理教室等では、新型コロナウイルス感染症の感染対策講じながら様々な団体と連携し開催することで、農業体験では地域の食物生産について学ぶ機会となり、料理教室では料理経験のない男性に健全な食生活推進を図る機会となった等、体験を通して食についての関心や理解を深め、次世代へ食に関する知識や取り組みをつなげていけるよう食育を推進しました。

#### (4)「基本方針4. 地産地消の促進と環境に配慮した食育の推進」に対する評価

指標のうち、A判定（目標達成）が1つ、B判定（目標は達成していないが改善傾向）が1つ、C判定（悪化または変化なし）が2つとなっております。食品ロス削減のために何らかの行動している人の割合が目標を達成することができましたが、引き続き、「食べのこサンデー」キャンペーン等の環境に配慮した取組を推進していく必要があります。

地産地消の促進については、小学校給食やイベント等における地元農産物生産・調整や、農業者と都市住民の交流を目的とした農業まつりイベントにおいて地元農産物の販売を実施しており、生産者や生産地を意識して食品を選択するきっかけの場を提供することができました。そこから地元農業への関心を高め、地産地消へとつなげるよう努めました。また、農を身近に感じる食育推進の取り組みとしては、食農体験学習支援事業として、校内や近隣の田んぼ等を借りて、稲等の栽培を実施したり、農業ふれあいツアーとして、市内農家が栽培した新鮮な農産物を直接市民が収穫する等の体験事業を実施しました。

環境に配慮した食育の取り組みでは、学校給食のごみの分別の推進として給食の残菜の減量、給食ゴミの分別を推進するとともに、市民・事業者・行政との連携による4R（リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル）の普及・啓発、食品ロス削減のため「食べのこサンデー」キャンペーンの開催し、「おいしい食べ物を適量で残さず食べきる運動」を実施しました。具体的な意識づけとして、①「食べる分だけ作りましょう」、②「食べる分だけ注文しましょう」、③「ご飯を無理なく食べ切りましょう」、という3つの標語を発信し、各家庭で取り組み周知しました。また、NPOと協働での講習会や段ボール箱やコンポスト容器、EM（有用微生物群）を使用した堆肥化事業や市民への講習会を開催し、生ごみの資源化、枚方市農業振興協議会においてエコレンゲ米の普及促進、食についての基礎的な知識に関する問題集「食育Q&A」を作成・配布し、幅広い世代に啓発することにより、食品ロス削減の意識向上を図りました。



## (5) 全体評価

各指標の達成状況を全体で見ると、A判定（目標達成：8.3%）とB判定（目標達成はしていないが改善傾向：25.0%）の合計は33.3%となりました。

C判定（悪化または変化なし：66.7%）となっている指標においては、本計画策定時からわずかに減少しているだけの項目も多く、引き続き取り組みを実施していくことで改善していく可能性が考えられます。

一方、包括指標としては、2項目ともB判定と改善傾向がみられ、全体的な食育の取組としては進んでいることが伺えます。

また、優先課題の一つであった「指標⑨：生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する市民の割合」では、B判定（66.5%）で改善傾向がみられ取り組みの成果が出た結果となりました。

一方、もう一つの優先課題であった「指標④：1日のうちに主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている若い世代の増加（20歳代・30歳代）」については、計画策定時より数値が減少する結果となり更なる取り組みの必要性がある課題と言えます。

若い頃からの食習慣の積み重ねが、健康寿命の延伸につながることから「1日のうちに主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている若い世代の増加（20歳代・30歳代）」を優先課題として、引き続き対策を講じます。

### 優先課題

- ・1日のうちに2食以上、主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている若い世代の増加（20歳代・30歳代）

## 3. 今後の取組の方向性

今後は最終評価からみえた現状・課題を踏まえた上で、国の第4次食育推進基本計画と健康日本21（第三次）、大阪府の食育推進計画を勘案するとともに、本市の第3次健康増進計画と整合性をとり、取り組みを進めていきます。

まずは、市民が生涯を通じて健全な食生活を送りつづけられるよう、健康寿命の延伸を念頭にした生活習慣病予防等の取り組みを継続しつつ、食に対して豊かな心を育むことができるような食育を推進していきます。そのためには、引き続き若い世代に重点をおいた食育を推進するとともに、個人がたどる多様な人生のあり方（ライフコース）を考慮した食育に取り組んでいきます。

また、SNS等を効果的に活用した情報発信の充実や公民連携の取り組みを推進し、食育に関する社会環境の整備・質の向上を図っていきます。